

PET-CT 検査と他検査・治療との影響について

PET-CT 検査前に以下の検査を行うと保険点数が算定できない、画像が正しく評価できないなどの影響がありますので、予約の際はご注意ください。

他検査・治療との影響

- (1) **Ga シンチ検査**：同一月は保険点数の低い方が、保険点数算定が出来ない。
- (2) **バリウム検査**（上部消化管・注腸など）：バリウム検査後、約1週間は腸管にバリウムが残存している場合があり、アーチファクトが発生し偽陽性の可能性。
- (3) **気管支鏡・胃及び大腸内視鏡**：当日のPET-CT検査前、又は前日に内視鏡検査を行うと、偽陽性の可能性。可能であればPET-CT検査を先に行う。
- (4) **造影CT検査**：PET-CT検査前当日又は前日に造影CT検査を行うと、造影剤による偽陽性の可能性。
- (5) **化学療法・放射線治療等**：PET-CTの初回検査は、治療前が基本。化学療法や放射線療法開始により、感受性の高い腫瘍はブドウ糖代謝がすぐに変化するため。

併用の他検査・治療	PET 検査日時のお勧め	理由
Ga シンチ	同一月を避ける	保険点数算定が出来ない
バリウム検査	左記検査後1週間以上の間隔をおく事	アーチファクトと偽陽性の可能性
気管支鏡・胃内視鏡・大腸内視鏡	左記検査後2日以上の間隔をおく事	偽陽性の可能性
造影CT		偽陽性の可能性
化学療法・放射線治療等	初回のPET-CT検査は治療前の施行	感受性の高い腫瘍の糖代謝変化

その他の留意点

- (1) PET-CT 検査後当日は、少量ですが患者さんからの放射線があります。職員の被ばく防止観点から、可能であればPET-CT検査の前に他の検査を受けて頂くことをお勧めします。
- (2) 同一月のCT検査後にPET-CT検査を行う場合は、PET検査のみ（PET-CT検査が8625点のところPET検査7500点）で算定されますことをご承知おきください。

不明な点がございましたら、PETセンターへお問い合わせ下さい。